

mois de la critique

映画 / 批評 月 間

《フランス映画の現在をめぐって》

Nouveaux rendez-vous
du cinéma français

Vol. **01**

2019

3.9 土 ▶ **4.21** 日

du 9 mars au 21 avril 2019

TOKYO

アンスティチュ・フランセ東京
エスパス・イマージュ
à l'Institut français du Japon - Tokyo

企画協力 Programme conçu avec

ジュリアン・ジェステール (「リベラシオン」文化部チーフ)

Julien GESTER, chef de service Culture à *Libération*

ゲスト Invités

クレール・ドウニ Claire DENIS

黒沢清 Kiyoshi KUROSAWA

マチュー・カペル Mathieu CAPEL

五所純子 Junko GOSHO

五十嵐耕平 Kohei ICARASHI

松井宏 Hiroshi MATSUI

三浦哲哉 Tetsuya MIURA

大寺真輔 Shinsuke ODERA

須藤健太郎 Kentaro SUDO

富田克也 Katsuya TOMITA

結城秀勇 Hidetake YUKI

(アルファベット順 ordre alphabétique)

High Life de Claire Denis

INSTITUT
FRANÇAIS

アンスティチュ・フランセ東京
Japon - Tokyo

vivre
les
cultures

これまで**20**年近く、映画雑誌「カイエ・デュ・シネマ」とともにフランス映画の現在を紹介してきましたが、今年より新たに「映画／批評月刊〜フランス映画の現在をめぐって〜」と題して、同雑誌を含むより多くのフランスのメディア、批評家、専門家、フェスティバルや文化施設のプログラマーらと協力し、最新のフランス映画を選びすぐり、ご紹介します。初回を飾る今年は、フランス日刊紙「リベラシオン」の映画批評家であり、同紙文化部チーフ、ジュリアン・ジュステールを迎え、同氏と共に、**SF**、刑事もの、コメディ、アクション、エロス、青春ものと、新世代、あるいはベテランの作家たちがこれまでになく様々なジャンルに果敢に挑んでいるフランス映画の現在を紹介します。最新作『ハイ・ライフ』が**2019**年**4**月に日本公開予定のクレール・ドゥニのこれまでの作品、そして近年再評価の機運が高まっている「見出された映画作家」ギィ・ジルの作品も紹介します。特集中は、映画監督、批評家たち、豪華ゲストを迎え、映画の可能性、あるいは映画と批評の間の多様な可能性について語り合います。

Hommage à Claire Denis



パリ生まれ。幼少期を植民地行政官の父の赴任地であるアフリカの国々を移動しながら過ごす。フランスへ帰国後、フランス高等映画学院へ入学、卒業後は、ジャック・リヴェット、ヴィム・ヴェンダース、ジム・ジャームッシュなど名だたる映画監督たちのアシスタントを務める。1988年、初の長編で自伝的作品『ショコラ』がカンヌ国際映画祭のオフィシャル・コンペティション部門に選出。続いて、人種の垣塙パリ18区を舞台とした群像劇『パリ、18区、夜。』(94)で自らの作家性を確立し、日本でも熱烈なファンを獲得。アルテのテレビ・シリーズ「彼らの時代のすべての男の子たち、女の子たち」で撮られた『US GO HOME』(94)は自らの思春期を題材に若者たちの行き所のない欲望、身体を瑞々しく描き、その続編として企画された『ネットとボニ』(96)はロカルノ映画祭のグランプリをはじめとする三冠を受賞。1999年にドニ・ラヴァン主演で再び自らの原点であるアフリカの地、ジブチに戻って撮った『美しき仕事』で第28回ロッテルダム国際映画祭 KNF 賞など多数の賞受賞。その後も現代の吸血鬼たちを描いた官能的な『ガーゴイル』(2001)、父親と娘の絆を繊細に描いた『35杯のラムショット』(2009)、カンヌ国際映画祭「ある視点」部門に出品されたフィルム・ノワール『パスターズー悪い奴ほどよく眠る』(2013)、そして2017年にカンヌ映画祭監督週間に出品されたジュリエット・ピノッシュ主演の『レット・ザ・サンシャイン・イン』では初のラブ・コメディと、その作風の豊かさは新しい世代の映画監督たちからも熱烈な賞賛を受けている。最新作の『ハイ・ライフ』はドゥニが数年かけて準備してきた念願の企画であり、彼女にとって初のSF映画、初の英語作品、ロバート・パティンソンやジュリエット・ピノッシュ、ミア・ゴスといった国際的スターが出演し、2018年9月にトロント国際映画祭で世界初上映された。つねにあらたなジャンル、スタイルを追求しながら、人間の奥深くにある欲望、暴力性、愛の形などをときに瑞々しく、ときに生々しく、ときに禍々しくスクリーンに映し出し、観る者たちを魅了してやまない映画作家。

ハイ・ライフ High Life

[ドイツ=フランス=アメリカ=イギリス=ポーランド/2018年/113分/カラー/デジタル/英語/日本語字幕]
出演：ロバート・パティンソン、ジュリエット・ピノッシュ、ミア・ゴス、アンドレ・ベンジャミン ほか 〈PG-12〉
遙か彼方、太陽系外の宇宙。死刑囚たちが極刑の免除と引き換えに、代替エネルギーを得る実験のために宇宙船の中で生活している。その一人であるモントは、まだ赤ん坊である娘を守りながら過ごしている。実験を指揮するのは、ひとりの美しい女性科学者。彼女のミッションは、信じられないほど衝撃的なものだった…。宇宙船などの美術には、デンマークの現代芸術家オラファー・エリアソンが参加し、ミニマルながらこれまでにない幻想的なSF映画の世界が創造されている。

「この映画を作ることで人類の終わりを、別の何かへの変転（生成）、はかりしれない冒険の可能性として想像することができた」——クレール・ドゥニ
「クレール・ドゥニはロバート・パティンソンとジュリエット・ピノッシュを恍惚とさせるような、永遠と続く宇宙の旅へと送り出す。偉大なジャンル映画に連なり、幻覚にとらわれた、奥深い傑作」



現代の映画シリーズ：ジャック・リヴェット、夜警

Cinéaste de notre temps : Jacques Rivette, le veilleur

[フランス/1990年/127分/カラー/ベータカム/フランス語/日本語同時通訳付]
出演：ジャック・リヴェット、セルジュ・ダネー、ビュル・オジエ、ジャン＝フランソワ・ステヴァナン
ジャック・リヴェットと映画批評家セルジュ・ダネーの対談を収めたドキュメンタリー。ふたりは、リヴェット作品の舞台となったパリの様々な場所を移動しながら、ヌーヴェルヴァーグの仲間たち、俳優との関係、絵画、街、映画を見ることについてなど、多方面にわたり語り合う。

死んだってへっちゃらさ S'en fout la mort

[フランス/1990年/91分/カラー/DVD/フランス語/日本語字幕]
出演：イザック・バンコレ、アレックス・デスカス、ジャン＝クロード・ブリアリ、ソルベイグ・ドマルタン
それぞれベナンとアンティル諸島からの移民であるダとジョスリン。ふたりはパリ南郊の中央卸売り市場ランジスのレストラン経営者と結託し、闇で賭け闘鶏を行っている。それによって生計を立て堅実な生活を送ることを望んでいたが、不利な状況に追い詰められていく。ドゥニ長編二作目でモンテ・ヘルマン監督の『コックファイター』(74)から着想を得た闘鶏映画の傑作。

パリ、18区、夜。 J'ai pas sommeil

[フランス/1994年/112分/カラー/35mm/フランス語/日本語字幕]
出演：カテリーナ・ゴルベワ、ベアトリス・ダル、アレックス・デスカス
女優をめざしリトアニアからパリにやってきた若い娘ダイガは18区の安ホテルで清掃の仕事をしながら下宿することに。そのホテルで暮らしているアフリカ系移民のカミーユは精悍な肉体を売り物にゲイ・クラブでダンサーをしている。時を同じくして、パリでは老女を狙った連続殺人事件が起こる。昼も夜も休むことなく人々が蠢いているパリ18区で様々な人生、運命、フィクションが交錯する。

美しき仕事 Beau travail

[フランス/1999年/90分/カラー/35mm/フランス語/英語字幕]
出演：ドゥニ・ラヴァン、ミシェル・スポール、グレゴワール・コラン
マルセイユ、元准尉のガルーがジブチの湾岸で仲間たちと過ごした時間を回想していた。ガルーたち外人部隊の小隊が道を補修し、訓練を重ねている。無機質なアフリカの海岸の風景、目を眩ませるような光、灼熱の暑さの中で、有機物と無機物、抽象と具象が溶け合う。「戦争についての映画を撮ろうとしたとき、それを戦闘的な動きの緩慢なる変化としてのダンスを通して表現したいと思った」——クレール・ドゥニ

ガーゴイル Trouble Every Day

[フランス/2001年/100分/カラー/35mm/カラー/フランス語/日本語字幕]
出演：ベアトリス・ダル、ヴィンセント・ギャロ、トリシア・ヴェッセイ
アメリカ人研究者のシェーン・ブラウンは、新妻のジューンを伴い、ハネムーンでパリにやって来る。しかし、シェーンはなぜか妻を抱こうとしない。一方、パリ郊外の屋敷で監禁されながら暮らす女性コレ。部屋の鍵を壊しては夜の街をさまよう彼女の行動に夫は心を悩ませていた。「『ガーゴイル』には、排除というものが存在しない。すべての瞬間を映画に込めるとい意志が働いている。ここに、映画が解放されているという希望を私は持った」——黒沢清

35杯のラムショット 35 rhums

[フランス/2009年/100分/カラー/デジタル/フランス語/日本語字幕]
出演：アレックス・デスカス、マティ・ディオップ、ニコール・ドーグ、グレゴワール・コラン
RERの運転手のリオネルは、娘のジョゼフィーヌと二人でパリ郊外に暮している。父は愛する娘との別れが遠くないと感じ始める。父親を演じるのはクレール・ドゥニ作品にかかせない俳優アレックス・デスカス。娘役は、セネガルの巨匠ジブリル・ディオップの姪で、自らも映画監督として活躍しているマティ・ディオップが演じている。小津安二郎へのオマージュが込められた作品で、父と娘の関係を詩情豊かに描いた秀作。ヴェネチア国際映画祭出品作品。

レット・ザ・サンシャイン・イン Un beau soleil intérieur

[フランス/2017年/95分/カラー/デジタル/フランス語/日本語字幕]
出演：ジュリエット・ピノッシュ、グザヴィエ・ボーヴォワ、フィリップ・カトリヌ、ジェラルド・バルデュール
アーティストでシングルマザーのイザベルは愛を探している、真実の愛を。「カミーユはジュリエットそのものだ。胸の開いたTシャツ、ミニスカートにニーハイブーツを纏い、女らしくあることを恐れない女性。そしてそのジュリエットが踊る『At last』を歌うエタ・ジェームズ、彼女自身についての映画でもある」——クレール・ドゥニ
「この素晴らしい初のラブ・コメディで、クレール・ドゥニはジュリエット・ピノッシュを陶然とさせるような誘惑のパレエの只中に誘い込む」

Libération BEST-OF 2017-2018

「使い古された主題や作風に身動きが取れなくなり、資金不足で製作力も弱っている、ここ何年かそのように言われ続けてきたフランス映画だが、昨年、クレール・ドゥニ、パトリシア・マズィ、ソフィー・フィリエールらベテランの女性監督たちが斬新で偉大な作品を発表し、豊かなフィルモグラフィーにさらなる奥行きを与えている。そして驚くべき才能を担った新たな世代も出現している。彼ら若手監督たちの作品は、大きな志や独特な想像力によって、使い古されたコードや時代が定める気がめいるような宿命にはっきりと抵抗を示している」——ジュリアン・ジェステール



ジェシカ **Jessica Forever** de Jonathan Vinel et Caroline Poggi

[フランス/2018年/97分/カラー/デジタル/フランス語/日本語字幕]

監督:キャロリーヌ・ポギ&ジョナタン・ヴィネル

出演:アオミ・ムヨック、ゼバスティアン・ウルツェンドウスキ、オウギュスタン・ラダネ

ジェシカは闘士であり、母親、魔術師、気高い女神、スターである。ディストピア的世界で、ジェシカは孤立し、愛情を知らず怪物になってしまった子どもたちを救う。彼らはひとつの家族となり、生き残る権利を得られる世界を自分たちで作り始める。ジェシカのキャラクターはゲーム『メタルギアソリッドV』のクワイエットから着想を得ている。本特集で短編2本が紹介される期待の監督コンビ、ポギ&ヴィネルの長編処女作をフランス公開に先駆けて特別上映！（配給:クロックワークス）



ポール・サンチェスが戻ってきた！ **Paul Sanchez est revenu!** de Patricia Mazuy

[フランス/2018年/101分/カラー/デジタル/フランス語/日本語字幕]

監督:パトリシア・マズィ 出演:ローラン・ラフィット、ジタ・オンロ、フィリップ・ジラル

10年前に失踪した犯罪者、ポール・サンチェスが、プロヴァンス地方のレ・ザルクで目撃されたという。憲兵隊舎では誰もそのことを本気にしなかったが、若い憲兵のマリオンは違った…。「このような場所を映画に撮るのはパトリシア・マズィにおいて他にいないだろう。丘陵、レ・ザルク、谷、国道、まるでラオール・ウォルシュの映画に見られるような広大な世界。ある人物の狂気が拡散していくとともに物語が展開し、やがてその狂気は集団の中へと波及していく。(…)」



勤務につけ！ **Au poste** de Quentin Dupieux

[フランス/2018年/73分/カラー/デジタル/フランス語/日本語字幕]

監督:カンタン・デュピュー

出演:ブノワ・ポールヴールド、アナイス・ドゥムスティ、グレゴワール・ルディック、マルク・フリーズ

舞台とはある警察署。ブロン捜査官は、血まみれで見つかったある男の殺人事件の調査を担当し、遺体を発見したフガンという男を第一容疑者として取り調べを受けることに。記憶と現実、虚構が混ざり合っていく…。「フレンチ・エレクトロ・ムーブメントを代表するアーティストであり、映像作家でもあるミスター・オワゾことカンタン・デュピューの6本目の長編。80年代フランスの刑事ものへのオマージュであると同時に、間違った時に、間違った場所に居合わせてしまったカフカ的とも言える世界を描くミステリー・コメディ」



ソヴァージュ **Sauvage** de Camille Vidal-Naquet

[フランス/2018年/99分/カラー/デジタル/フランス語/日本語字幕]

監督:カミュー・ヴィダル＝ナケ 出演:フェリックス・マリトー、エリック・ベルナル、ニコラ・ディブラ

22歳の青年レオは、街娼をして僅かな金を稼いでいた。次から次へと行き交う男たちに、彼は愛を求め、身体を差し出す。明日がどんな日になろうとも、そんなことは関係ない。彼は今日も街に繰り出してゆく。胸に高鳴る鼓動を感じて…。カンヌ映画祭批評家週間ではプレミア上映され、高い評価を得る。「むき出しの鮮烈さとセンチメンタルな側面を併せ持つカミュー・ヴィダル＝ナケの処女長編は、とりわけ主演のレオを演じるフェリックス・マリトーという新たな才能とともに、作品のテーマが孕む危険を見事に乗り越え、素晴らしい作品を生み出している」



シェエラザード **Shéhérazade** de Jean-Bernard Marlin

[フランス/2018年/112分/カラー/デジタル/フランス語/日本語字幕]

監督:ジャン＝ベルナル・マルラン 出演:ディラン・ロペール、ケンザ・フォルタス、イディール・アズグ

ザカリは17歳、刑務所から出所したばかり。母親にも見捨てられ、マルセイユの下町をぶらついてたところ、シェエラザードという名の少女と運命的な出会いをする…。2018年ジャン・ヴィゴ賞受賞。「ここ最近、若手のフランス映画作家たちが精力的に、偉大な作家たち（ここではデパルマ、パソリーニ）からの影響を怖れることなく受け入れ、クレイジーな試みに乗り出している。北マルセイユ境界、それも学校と刑務所を往来するように撮られJ=P・マルランの作品はその証となる一本だ」



ワイルド・ボーイズ **Les Garçons sauvages** de Bertrand Mandico

[フランス/2018年/110分/モノクロ&カラー/デジタル/フランス語/日本語字幕]

監督:ベルトラン・マンディコ 出演:ヴィマラ・ボンズ、ポリーナ・ロリラル、ディアンヌ・ルクセル、アナエル・スノウ、マチルド・ワルニエ、サム・ルーウィック、エリナ・レーヴェンソン

20世紀初頭。良家出身の5人の少年が、ある日魔が差して、卑劣な罪を犯してしまう。罰として謎の船長に預けられた少年たちは、過酷な航海の旅へと連行される。密かに反乱を企てる5人だが、ある無人島に座礁すると、そこには快楽を与えてくれる幻想的な植物が生い茂り、いつの間にか欲望に溺れていく。すると、少年たちの身体は次第に変異していき、ゆるやかにセクシュアリティーの境界線が溶けていく…。デジタルトリックは一切頼らない、驚くべき造形的美しさも見所のひとつ。



ソフィア・アンティポリス **Sophia Antipolis** de Virgil Vernier

[フランス/2018年/98分/カラー/デジタル/フランス語・英語/日本語字幕] R12+

監督:ヴィルジール・ヴェルニエ 出演:ドヴィ・キュネツ、ユーグ・ンジバムクナ、サンドラ・ポワトゥ

ソフィア・アンティポリス、それは地中海と森と山の間にある不思議な場所。眩いばかりの陽光の下、男女も女も生きる意味を、人々とのつながりを、自分たちが属する共同体を探している。そしていつのまにか彼らは失踪したひとりの少女の運命と交錯していく。「前作『メルキュリアル』にて幻覚にとらわれたパリ郊外での漂流を描いた、現在重要な政治映画作家の中でもっともノワールなヴェルニエが、コートダジュールの太陽と遅れてきた資本主義の凍りつくような炎に焼き尽くされたこの超現実主義的ホラー映画においてさらにその方法論を磨き上げる」



20年後の私も美しい **La Belle et la Belle** de Sophie Fillières

[フランス/2018年/95分/カラー/デジタル/フランス語/日本語字幕]

監督:ソフィー・フィリエール 出演:サンドリーヌ・キペルラン、アガット・ボニゼール、メルヴィル・ブポー

将来についてあまり展望がないまま日々を送っていた大学生のマルゴーは、40代半ばの女性マルゴーと知り合う。全ての偶然が彼女たちを結び付け、自分たちが一つの人生の異なる年齢を生きる同じ人間である事を知ることに…。現代を生きる女性たちが風変わりなシチュエーションに巻き込まれるラブ・コメディをコンスタントに発表してきたソフィー・フィリエールの長編8作目。監督の実際の娘で、透明感のある美しさが魅力のアガット・ボニゼールとコメディエンヌとしての評価が高いサンドリーヌ・キペルランがひとりの女性の20代と40代をそれぞれ繊細に演じている。



僕らプロヴァンシアル **Mes provinciales** de Jean-Paul Civeyrac

[フランス/2018年/137分/カラー/デジタル/フランス語/英語字幕・作品解説配布]

監督ジャン＝ポール・シヴェラック 出演:オンドラニック・マネ、ゴンザグ・ヴァン・ベルヴェセレス、コランタン・フィラエティエンヌは大学で映画を学ぶため、パリに上京する。そこで映画への情熱を同じくするマティアスとジャン＝ノエルと出会う。しかし年月とともに彼らの抱いていた幻想が徐々に変質していき…。

「シヴェラックは、ブレッソン、ロメール、ユスターシュと同じような方法で、アナクロニズムを引き受けている。たとえば現在そのものを言葉の中に詰め込み、それを古くからの思想によってねじ曲げ、時を越えたプロットの中で純化させるように。それは大いに野心的な行いであり、しかも非常に繊細なる簡素さ、清澄なるモノクロ映像によって俳優たちの顔、彼らが発する言葉が見事にとらえられている」



カレ35 **Carré 35** d'Éric Caravaca

[フランス/2017年/67分/カラー/デジタル/フランス語/英語字幕・作品解説配布]

監督エリック・カラヴァカ

「カレ35は私の家族の中で一度も名指しすることがなかった場所です。3歳で亡くなった私の姉が埋葬されたのもその場所です。姉のことは人からほとんど聞いたことがなく、両親も奇妙なことに一枚も写真を残していませんでした。彼女のイメージの欠如を埋めるために私はこの映画を作ることにしました。忘れ去られた人の生が流れていることを信じて、私がずっと知らずにいた彼女が生きた時間、私たち一人ひとりの中に意識せずとも存在してきて、私たちを作っているとも言える記憶へと、秘密の扉を開けたのです」——エリック・カラヴァカ



映画/批評をめぐって ジャン・ドゥーシェ、ある映画批評家の肖像

Jean Douchet, l'enfant agité de Fabien Hagege, Vincent Haasser, Guillaume Namur

[フランス/2017/85分/カラー/デジタル/フランス語/英語字幕・作品解説配布]

監督:ファビアン・アジェージュ、ギヨーム・ナミュール、ヴァンサン・アセール

ジャン・ドゥーシェは50年以上前から映画批評家として世界中を旅してきた、映画についての伝道師、「渡り守(バサール)」である。その類まれなる知性、教養、ユーモアによって、映画作家や映画ファンたちに影響を与えてきた。ある晩、三人の仲間たちがドゥーシェと出会い、彼の話にすぐさま魅惑され、ジャン・ドゥーシェという謎も多い男との特権的な関係を持ち始める。



Ultra Pulpe



Braguino



Laissé inachevé à Tokyo



After School Knife Fight



La lettre



L'École des facteur



《短編映画祭》

アンスティチュ・フランセは、フランス国立映画センターの支援のもと毎年3月に開催される「短編映画祭」に参加し、世界各国で、優れた短編作品を紹介しています。新世代の監督たちから巨匠たちまで、彼らの才能、作家性が短いフォルムの中に凝縮されている作品群をどうぞこの機会にご覧下さい！

ウルトラ・レーヴ **Ultra Rêve**

[フランス/2018年/82分/カラー/デジタル/フランス語/日本語字幕]

カンヌ国際映画祭ほか数多くの映画祭で上映され、話題をよんだ気鋭の若手監督による3作の短編作品が『ウルトラ・レーヴ』というタイトルで一本にまとめられたオムニバス作品。『アフター・スクール・ナイト・ファイト』は16ミリ、その他の3本は35ミリで撮られている。

甘美なほどに過激、ピリッとしていて、ネオ・バロックの作風が光る3本の短編集には、様々な記憶、ポップ・カルチャーへのオマージュ、セクシュアリティの破片が満ちている——「リベラシオン」

・アフター・スクール・ナイフ・ファイト

After School Knife Fight de Caroline Poggi, Jonathan Vinel
監督・脚本・音楽：キャロリーヌ・ポギ、ジョナタン・ヴィネル/21分

・アイランズ **Les Îles** de Yann Gonzalez

監督：ヤン・ゴンザレス/23分

・アポカリプス・アフター **Ultra Pulpe** de Bertrand Mandico

監督・脚本：ベルトラン・マンディコ/37分

ブラギノ **Braguino** de Clément Cogitore

[フランス・フィンランド/2017年/50分/カラー/デジタル/ロシア語/英語字幕・作品解説配布] 監督：クレモン・コジトール

シベリアに広がるタイガのど真ん中、一番小さな村からも700キロ離れた場所にブラギヌ家とキリヌ家は暮らしている。そこにつながる道はない。ただ、エニセイ川を舟で進み、のちにヘリコプターに乗り換える長い旅を経てやっとブラギノの地にたどり着ける。そこで、二つの家族は自給自足の生活を彼ら独自のルールにのっって営んでいた。サンセバスチャン国際映画祭の自由な発想、新たな創造に挑んでいる作品を集めたタバカレラ部門で最優秀作品賞を受賞。

私たちに散弾銃が残されているかぎりは

Tant qu'il nous reste des fusils à pompe

de Caroline Poggi et Jonathan Vinel

[フランス/2014年/31分/カラー/デジタル/フランス語/英語字幕・作品解説配布] 監督：キャロリーヌ・ポギ&ジョナタン・ヴィネル

暑い日。奇妙にも路上にはほとんど人影がない。椰子の木が唸り、散弾銃は涙を流している。ジョシュアは死にたいと思っているが、弟のマエルを一人残して逃げない。そんな時、武装したアイスバーグのギャングたちに出会う。第64回ベルリン国際映画祭短編部門金熊賞 受賞作品。

短編傑作集 **Best of courts métrages** [計90分] 英語字幕のみ

・リュックによる人生 **La Vie selon Luc** de Jean-Paul Civeyrac

監督：ジャン＝ポール・シヴェラック [フランス/1991年/5分/カラー/デジタル]

・娘たち、犬たち **Des filles et des chiens** de Sophie Fillières

監督：ソフィー・フィリエール [フランス/1990年/6分/カラー/デジタル]

・イエスと言って、ノーと言って **Dis moi oui, dis moi non** de Noemie Lvovsky

監督：ノエミ・ルヴォヴスキ [フランス/1988年/17分/カラー/デジタル]

・東京の間 **Laissé inachevé à Tokyo** d'Olivier Assayas

監督：オリヴィエ・アサイヤス [フランス/1982年/22分/モノクロ/デジタル]

・白い悪夢 **Cauchemar blanc** de Mathieu Kassovitz

監督：マチュー・カソヴィッツ [フランス/1946年/15分/カラー/デジタル]

・家事 **Ménage** de Pierre Salvadori

監督：ピエール・サルヴァドリ [フランス/1992年/12分/カラー/デジタル]

・手紙 **La lettre** de Michel Gondry

監督：ミシェル・ゴンドリー [フランス/1998年/13分/カラー/デジタル]

巨匠たちの短編集 **Les courts des grands cinéastes** [計83分]

・ロックの思い出に **A la mémoire du rock** de François Reichenbach

監督：フランソワ・レシャンバック [フランス/1963年/11分/モノクロ/デジタル/英語字幕]

・男の子の名前はみんなパトリックっていうの

Tous les garçons s'appellent Patrick de Jean-Luc Godard

監督：ジャン＝リュック・ゴダール [フランス/1959年/21分/モノクロ/デジタル/日本語字幕]

・新学期 **Rentrée des classes** de Jacques Rozier

監督：ジャック・ロジエ [フランス/1956年/24分//モノクロ/デジタル/英語字幕]

・郵便配達の学校 **L'École des facteur** de Jacques Tati

監督：ジャック・タチ [フランス/1946年/15分/モノクロ/デジタル/日本語字幕]

・紹介またはシャルロットとステーキ

Présentation ou Charlotte et son steak d'Eric Rohmer

監督：エリック・ロメール [フランス/1960年/12分/モノクロ/デジタル/英語字幕]



Tous les garçons s'appellent Patrick

Rétrospective Guy Gilles

un cinéaste retrouvé

《ギィ・ジル：見出された映画作家》

ギィ・ジル (1938-1996)：アルジェリアの首都アルジェ生まれ。子供の頃より映画ファンで、20歳で13分の美しい処女短編作品『消された太陽』を監督。アルジェリア戦争下の1960年、パリへ移住。ピエール・ブロンベルジェの援助により、何本か短編を監督し、その中の『Au biseau des baisers』を気に入ったジャン＝ピエール・メルヴィルから援助を受け、初長編の自伝的作品『海辺の恋』(63)を3年がかりで製作、ロカルノ映画祭で批評家賞を受賞。長編二作目『切られたパンに』(67)にはマルグリット・デュラスらから賛辞の言葉が寄せられる。三作目『地上の輝き』(69)はイエル映画祭グランプリ、四作目の『反復された存在』(72)はジャン・ヴィゴ賞を受賞。

「ユスターシュヤガレトとさほど遠くなく、彼らの従兄弟のような存在でありながら、人目にあまり触れることなく映画を撮り続けていたギィ・ジル。忘却に抗う力を秘めていた彼の映画がようやく発見、再発見され、フランスをはじめ世界中で徐々に評価が高まっている。そして今回、日本で初めて、ギィ・ジルのもっとも美しい4本の作品を特集する」——ジュリアン・ジェステール



Guy Gilles © DR

海辺の恋 **L'Amour à la mer**

[フランス/1963年/73分/カラー&モノクロ/デジタル/フランス語/日本語字幕]

出演：ジュヌヴィエーヴ・テニエ、ダニエル・ムスマン、ギィ・ジル、シモーヌ・パリ、ジャン＝ピエール・レオ
ジュヌヴィエーヴは恋人の水兵ダニエルと海辺の街ドゥーヴィルで落ち合い、愛し合う。ヴァカンスが終わり、ダニエルは prest の駐屯地に、ジュヌヴィエールはパリに戻り、手紙を綴り、再会することを望みながら、それぞれの生活を送る。ダニエル同様アルジェリア戦争から戻ってきた水兵、ギィの感情がふたりのそれと混ざり合っていく。

切られたパンに **Au pan coupé**

[フランス/1967年/71分/カラー&モノクロ/デジタル/フランス語/日本語字幕]

出演：パトリック・ジュアネ、マーシャ・メリル、ベルナル・ヴェルレ

ジャンヌはかつての恋人を思い返し、そして今もその恋を生きている。ジャンは15歳で少年院に入り、既成秩序に反抗し、ブルジョワ的な世界もビート族たちの世界も拒否して死んでいった。彼の死を知らないジャンヌには、つねにジャンが亡霊のように寄り添っている。

この作品での愛は顔によって想起させられ——何度も繰り返し見せられる女性の顔、視線、——それにはただただ感嘆させられる。そう、こうした試みはこれまで一度も映画でなされたことがなかっただろう——マルグリット・デュラス

地上の輝き **Le Clair de terre**

[フランス/1969年/102分/カラー&モノクロ/デジタル/フランス語/日本語字幕]

出演：パトリック・ジョアネ、エドウィージュ・フィエール、アニー・ジラルド、ミシェリーヌ・ブーレル

チュニジア生まれで、母の死まで幼年期をその地で過ごしたピエールは現在、パリのマレ地区、ロジエール通りに父親と住んでいる。突如、パリを離れる必要を感じたピエールは再びチュニジアの首都チュニスに向かう。そこでかつての教師に導かれ、自分の過去の形跡を辿っていくことになる。

反復された存在 **Absences répétées**

[フランス/1972年/79分/カラー&モノクロ/DVD/フランス語/日本語同時通訳付]

出演：パトリック・ベン、ダニエル・ドゥローム、イヴ・ロバール、ナタリー・ドロン、パトリック・ジョアネ

29歳のフランソワは銀行で働いている。この世の何も彼の関心を引かないようだ。銀行の店長に呼ばれ、欠勤が重なり過ぎているので解雇を通告される。職業的立場を失ったことでフランソワは社会的疎外へと不可逆的に向かっていく。

「ジルの最も美しくも、最も悲しい作品であり、ジャンヌ・モローの声が作品全体に宿っている。」——ジュリアン・ジェステール



Guy Gilles © DR

上映スケジュール Calendrier

3.9 (土)	12:00	ジャン・ドゥーシェ、ある映画批評家の肖像 Jean Douchet, l'enfant agité (85分)
	14:15	パリ、18区、夜。 J'ai pas sommeil (112分)
	17:00	20年後の私も美しい La Belle et la Belle (95分)
3.10 (日)	12:15	美しき仕事 Beau travail (89分)
	14:30	レット・ザ・サンシャイン・イン Un beau soleil intérieur (95分)
	17:00	パリ、18区、夜。 J'ai pas sommeil (112分)
3.12 (火)	18:45	ハイ・ライフ High Life (113分) * アフタートークあり ゲスト:クレール・ドゥニ、黒沢清 suivi d'une discussion avec Claire Denis, Kiyoshi Kurosawa
	3.15 (金)	13:45
3.16 (土)	16:00	私たちに散弾銃が残されているかぎり Tant qu'il nous reste des fusils à pompe (31分) ブラギノ Braguino (50分)
	19:00	勤務につけ! Au poste! (73分)
	11:45	ウルトラ・レーヴ Ultra Rêve (82分)
3.17 (日)	14:00	現代の映画作家シリーズ: ジャック・リヴェット、夜警 Cinéaste de notre temps : Jacques Rivette, le veilleur (127分)
	17:00	ポール・サンチェスが戻ってきた! Paul Sanchez est revenu! (101分) アフタートークあり ゲスト:三浦哲也、五十嵐耕平、松井宏 suivi d'une discussion avec Tetsuya Miura, Kohei Igarashi, Hiroshi Matsui
3.17 (日)	12:15	巨匠たちの短編集 Courts des grands (83分)
	14:30	35杯のラムショット 35 rhums (100分)
	17:00	ガーゴイル Trouble Everyday (100分)
3.29 (金)	15:00	ソヴァージュ Sauvage (99分)
	18:00	ジェシカ Jessica forever (97分) アフタートークあり ゲスト:ジュリアン・ジェステール、五所純子、大寺真輔、 結城秀勇 Suivi d'une discussion avec Julien Gester, Junko Goshō, Shinsuke Odera, Hidetake Yuki
3.30 (土)	11:30	ワイルド・ボーイズ Les Garçons sauvages (110分)
	14:15	シェエラザード Shéhérazade (112分)
	17:00	ソフィア・アンティポリス Sophie Antipolis (98分) アフタートークあり ゲスト:ジュリアン・ジェステール、富田克也、マチュー・カベル suivi d'une discussion avec Julien Gester, Katsuya Tomita, Mathieu Capel
3.31 (日)	12:30	海辺の恋 L'Amour à la mer (73分)
	14:30	地上の輝き Le Clair de terre (102分)
	17:00	切られたパンに Au pan coupé (71分) 上映後、ジュリアン・ジェステールによる講演会あり suivi d'une discussion avec Julien Gester

4.5 (金)	17:00	カレ 35 Carré 35 (67分)
	19:00	反復された不在 Absences répétées (79分)
4.12 (金)	16:45	巨匠たちの短編集 Courts des grands (83分)
	19:00	死んだってへっちゃらさ S'en fout la mort (91分)
4.19 (金)	15:45	僕たちプロヴァンシアル Mes provinciales (137分)
	19:00	20年後の私も美しい La Belle et la Belle (95分)
4.20 (土)	12:15	ソヴァージュ Sauvage (99分)
	14:45	美しき仕事 Beau travail (89分)
4.21 (日)	17:00	ソフィア・アンティポリス Sophie Antipolis (98分) [シネリセ] **
	13:00	パリ、18区、夜。 J'ai pas sommeil (112分) 講師:須藤健太郎
	17:00	35杯のラムショット 35 rhums (100分)

■ 一般:1200円 学生:800円 会員:500円 ■ 開場時間:15分前 ■ チケット販売時間:上映当日各回の30分前から上映開始10分後まで。チケット販売時間内には、当日すべての回のチケットをご購入いただけます。全席自由。整理番号順での入場とさせていただきます。また、上映開始10分後以降の入場は、他のお客さまへの迷惑となりますので、固くお断りいたします。*『ハイ・ライフ』は、入場無料。上映当日11時から整理券を配布します。先着順。**シネ・リセ 若者向けの映画講座は、20歳前後の方を対象とした講座です(料金:500円)

第1回 映画/批評月間 フランス映画の現在をめぐって

[主催] アンスティチュ・フランセ日本 [助成] アンスティチュ・フランセパリ本部、ユニフランス [アンスティチュ・フランセ日本 映画プログラム オフィシャル・パートナー] CNC、笹川日仏財団、TV5 MONDE [フィルム提供及び協力] シネマテーク・フランセーズ、エチエ・フィルム、ゴーモン、国立視聴覚センター、株式会社クロックワークス、ロブスター・フィルム、MK2、ブレイタイム、トランスフォーマー、ライルド・バンチ [特別協力] ユニフランス、Bart.lab
Mois de la critique - nouveaux rendez-vous du cinéma français organisé par l'Institut français du Japon ; avec le soutien de : Institut français, CNC, Fondation Sasakawa, TV5 MONDE; **Merci à** Bart.lab, la Cinémathèque française, Ecce Film, Caumont, INA, The Klockworx, INA, Klockworks, Lobster Films, MK2, Playtime, Transformer, Unifrance, Wild Bunch

★この企画は以下の都市にも巡回します★

京都 4.5 [金] - 4.11 [木] @出町座
4.17 [水] @同志社大学寒梅館
大阪 4.5 [金] - 4.11 [木] @シネ・ヌーヴォ
横浜 5.18 [土]・6.29 [土] @東京藝術大学 横浜馬車道校舎
La circulation de ce programme est prévue :
Kyoto : du 5 au 11 avril à Demachiza, les 17 avril à l'Université Doshisha, Osaka : du 5 au 11 avril à Cine Nouveau, Yokohama : le 18 mai et le 29 juin à l'Université Ceidai

[会場・お問い合わせ]

アンスティチュ・フランセ東京 (旧・東京日仏学院)
〒162-8415 東京都新宿区市谷船河原町15
Tel. 03-5206-2500 | Fax. 03-5206-2501
www.institutfrancais.jp/tokyo/

